

令和3年度 地域とつくる支援の輪プロジェクト 分科会

〈第1回〉

- 1 日時
令和3年6月25日（金）
- 2 テーマ
「子どもへの遊びや経験の機会の提供について」
- 3 主な意見
 - ▶子どもが様々な遊びや経験を積み、家に帰ってから家族にその話をする事で、家庭でのコミュニケーションが増えて関係性の向上につながる。
 - ▶地域団体の活動を、支援が必要な方々に幅広く周知することが、行政の大切な役割。
 - ▶大人は、子どもたちのやりたいことを尊重することが大切。子どもを見守りつつも、できるだけ自由に行動させることで子どもの能力が育まれる。

〈第2回〉

- 1 日時
令和3年7月9日（金）
- 2 テーマ
「学習支援について」
- 3 主な意見
 - ▶「ほめる」「認める」を繰り返すことで、子どもが自信を持ち、自己肯定感の向上につながる。
 - ▶何かや誰かに依存せず、自分で考える子どもになってほしいと思っている。そのためには、家庭でも学校でもない第三者の大人が見守り、寄り添う居場所が必要だと思う。
 - ▶子ども一人ひとりの年齢や学習支援のニーズに合わせて、複数の団体などでサポートできるよう、大田区全体で子どもを支援する団体が協力・連携し合える仕組みがあると良い。

〈第3回〉

- 1 日時
令和3年11月12日（金）
- 2 テーマ
「地域における見守りについて」
- 3 主な意見
 - ▶子どもの声を聴くことが大切である。子どもの声を聴ける人を、関係機関に増やしていかないといけない。
 - ▶困りごとがあってもSOSを出しにくい家庭が多い。日ごろの声かけを積極的に行い、いざというときに相談できる関係にしていきたい。なんてことないことをやり続けることが大事である。
 - ▶同じ地区の団体でも、互いの活動を知らないことが多い。まずは団体同士が情報交換を密に行い、地域一体となって、子どもを見守る体制にしていく必要がある。
 - ▶共通理解を持って輪を広げていくことが必要である。



令和3年度 地域とつくる支援の輪プロジェクト 全体会

- 1 日時
令和3年12月18日（土）
- 2 場所
池上会館、WEB会議システム（子ども・大人の一部）
- 3 参加者
 - ・地域活動団体につながるの子ども
 - ・社会福祉法人
 - ・子どもへの支援を行う地域活動団体、主任児童委員
 - ・大田区社会福祉協議会（地域福祉コーディネーターを含む）
 - ・大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA
 - ・国際都市おおた協会
 - ・区関係所管職員
- 4 内容
 1. おおた 子どもの生活応援プランに関する報告
 2. 分科会活動報告
 3. こども1,000人アンケート結果報告
 4. 事例紹介（地域活動団体）
 5. 子どもの考えを聴く時間
【テーマ：大人に言いたいこと、
大田区がどんなまちになってほしいか など】
 6. グループディスカッション
【子どもの考えを聴いた感想、大人として何ができるか など】
 7. 発表



5 主な意見・感想（子ども）

- ◆区外の人に大田区のことをきくと、治安が悪い地区という印象をよくきく。治安が悪いと言っても、前よりはだいぶ良くなったと思うが、「なんとなく悪そう」というイメージが払拭されていない。いい大田区をもっとアピールしてほしい。
- ◆地域活動を通して、年上の人と話や勉強をすることで、生きる力を学ぶことができた。今後も、多世代交流が盛んな地域だといい。
- ◆子どもの悩みにしっかりと耳を傾ける姿勢を持ってほしい。
- ◆家庭の経済状況に左右されずに、均等に学びの機会が得られる地域にしてほしい。
- ◆中高生の居場所が増えるといい。児童館は高校生も行けるが、小さい子向けの印象が強い。
- ◆多様性が認められ始めているが、まだLGBTへの考えが浸透していないと思う。そのような境遇の方が生きやすくなるよう、周りが受け入れてくれる世の中になってほしい。
- ◆ こういう、若者の意見を大人が聞いて、その場で考えを出し合うという環境が新鮮で、貴重な経験ができたと誇らしく思いました。
- ◆ 困窮世帯であったために、友だちと同じように習い事に通えなかった。小さいときはそれが当たり前と思っていたけれど、不公平だと今は感じている。

6 主な意見・感想（大人）

- ◆ 子どもの率直な意見を拾える地域のネットワーク、「支援の輪」が必要である。
- ◆ 社会とのつながり、異世代交流の場の必要性の高さを感じている。
- ◆ 貧困による体験の少なさが、社会性を育むうえで、大きな影響を与えていると感じている。
- ◆ 行政の支援制度が充実しても、いかに支援を求めている人に届けるかが大切である。
- ◆ 子どもが相談しやすい体制をつくってほしい。